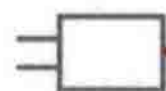


Literary biographies of electrification
Yu Nagashima

電化 文学 伝列

有 嶋 長





講談社文庫

常州大学图书馆
藏 文化文学列卷

長嶋 有

講談社

著者 | 長嶋 有 1972年生まれ。東洋大学第2部文学部国文学科卒。
2001年「サイドカーに犬」で第92回文学界新人賞を受賞し、デビュー。
'02年「猛スピードで母は」で第126回芥川賞受賞。'07年『夕子ちゃん
の近道』で第1回大江健三郎賞受賞。その他の著書に『ジャージの二
人』（集英社文庫）、『パラレル』（文春文庫）、『泣かない女はいない』（河
出文庫）、『エロマンガ島の三人』（文春文庫）、『ぼくは落ち着きがない』（光
文社文庫）、『ねたあとに』（朝日新聞出版）、『祝福』（河出書房新社）、
『安全な妄想』（平凡社）、『いろんな気持ちが本当の気持ち』（ちくま文
庫）などがある。

でん か ぶんがくれつでん
電化文学列伝

ながしま ゆう
長嶋 有

© Yu Nagashima 2011



講談社文庫

定価はカバーに
表示してあります

2011年11月15日第1刷発行

発行者——鈴木 哲

発行所——株式会社 講談社

東京都文京区音羽2-12-21 〒112-8001

電話 出版部 (03) 5395-3510

販売部 (03) 5395-5817

業務部 (03) 5395-3615

Printed in Japan

デザイン——菊地信義

本文データ制作——講談社デジタル製作部

印刷——豊国印刷株式会社

製本——株式会社若林製本工場

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。送料は小
社負担にてお取替えます。なお、この本の内容についてのお問い合わせは文庫出版部あ
てにお願いいたします。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられ
ています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ
個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

ISBN978-4-06-277110-8

電化文学列伝 目次

はじめに 8

川上弘美『センセイの鞆』の電池 II

伊藤たかみ『ミカ!』のホットプレート 23

吉田修一『日曜日たち』のリモコン 31

柴崎友香『フルタイムライフ』のシュレッダー 39

福永信「アクロバット前夜」のマグライト 47

尾辻克彦「肌ざわり」のブラウン管テレビ 55

映画『哀しい気分でジョーク』のレーザーディスク 65

吉本ばなな「キッチン」のジューサー 75

生田紗代「雲をつくる」の加湿器 85

アーヴィン・ウェルシュ『トレインスポッティング』の電気毛布 93

小川洋子『博士の愛した数式』のアイロン 105

千刈あがた『ゆつくり東京女子マラソン』のグローランプ 113

高野文子「奥村さんのお茄子」の「オクムラ電機店」前編	123
高野文子「奥村さんのお茄子」の「オクムラ電機店」後編	133
栗田有起「しろとりどり」のズボンプレッサー	143
映画『グレゴリーズガール』の電動歯ブラシ	153
花輪和一『刑務所の中』の電気カミソリ	163
川上弘美「夜の子供」の電気掃除機	175
長嶋有「猛スピードで母は」の炊飯ジャー	181
「ジャージの一人」の電子レンジ	191
「瑞枝さんの原付」の電気アンカ	199
あとがき	205
書き下ろし小説「導線」	215
解説 豊崎由美	229



講談社文庫

電化文学列伝

長嶋 有

講談社

イラスト／島 初季

電化文学列伝

電化文学列伝
目次

はじめに 8

川上弘美『センセイの鞆』の電池 II

伊藤たかみ『ミカ!』のホットプレート 23

吉田修一『日曜日たち』のリモコン 31

柴崎友香『フルタイムライフ』のシュレッダー 39

福永信「アクロバット前夜」のマグライト 47

尾辻克彦「肌ざわり」のブラウン管テレビ 55

映画『哀しい気分でジョーク』のレーザーディスク 65

吉本ばなな「キッチン」のジュースーサー 75

生田紗代「雲をつくる」の加湿器 85

アーヴィン・ウェルシュ『トレインスポッティング』の電気毛布 93

小川洋子『博士の愛した数式』のアイロン 105

千刈あがた『ゆつくり東京女子マラソン』のグローランプ 113

高野文子「奥村さんのお茄子」の「オクムラ電機店」前編	123
高野文子「奥村さんのお茄子」の「オクムラ電機店」後編	133
栗田有起「しろとりどり」のズボンプレッサー	143
映画『グレゴリーズガール』の電動歯ブラシ	153
花輪和一『刑務所の中』の電気カミソリ	163
川上弘美「夜の子供」の電気掃除機	175
長嶋有「猛スピードで母は」の炊飯ジャー	181
「ジャージの一人」の電子レンジ	191
「瑞枝さんの原付」の電気アンカ	199
あとがき	205
書き下ろし小説「導線」	215
解説 豊崎由美	229

はじめに

書店でなにげなく本書を手にとって、今このページに目を通してくださっている皆さんに、まずお断りしなければいけないことがあります。

実はこれは、電化製品について語った本ではありません。

……いや、ウソです。電化製品について、おいおい語っているけど、電化製品に興味がない人にも読んでもらえる本です。

実はこの本は「書評」なのです（映画、漫画評でもあります）。

さまざまな文学作品の、その中の電化製品について描かれている場面だけを抜き出して熱く語った、自分でいうのもなんですが、珍妙な書評集なのです。

ポプラ社Webマガジン「ポプラビーチ」と「小説現代」で連載されたものを精選し、書下ろしを加えて一冊にまとめました。

連載初期は、自分で書いた小説に出てくる電化製品の場面を自ら語っていました。当時、自作になされる書評で、僕が作中にしのばせた電化製品のことに触れてくれたものは一つもありませんでした。懐かしい固有名詞の用法に触れるときも「山口百恵」とか「麦チョコ」のことばかり。ほら、ここに「蚊取りマット」のことも書いたでしょう？ というフラストレーションがあつたのです。誰も語ってくれないなら俺が語る！ と。

連載していくうちに、電化製品の描き方に注目することは、文学表現そのものについて考

えることにつながるのではないか、とも思えるようになりました。書評といっても、取り上げた作品をあらかじめ読んでいる必要はなく、普通の読み物として楽しむことができる内容になったとも思います。

同時に、この連載はパロディでもありました。

雑誌の広告欄にこういうのがあります。見開きで「カツオのたたき」の写真がどーんとあって、それにテキストがかぶさる。池波正太郎の作品から、カツオのたたきに関しての描写が引用されている。下段には「カツオといえばんなんといつても……」と蒔田の文章が入る（実際にはカツオではなく、ビールかなにかの広告だったりする）。

ああいう荘重な「語り」をカツオではない、無味乾燥なものでやってみたいという、なんとも迂遠なパロディ行為。連載時には島初季さんに「カツオのたたき」的なカットをお願いしました。この単行本でも各章扉の口絵に残してあるので、ああいう広告をみる、しみじみした気分でご覧いただければ幸いです（文章も、池波作品の食事について語るときの、あの威厳のある感じで読んでほしい）。

電化製品に興味がある人も、書評が好きな人も、長嶋が好きな人も、そのどれでもない人も、「なんだこりゃ」とハテナマークを浮かべながらでいいので、お読みいただければ嬉しく思います。

川上弘美 『センセイの鞆』 の電池

